

# 高校生向けオンラインセミナー

関心のある高校生を対象に、大病院の医師らが専門分  
いて語るオンラインセミナー「Withコロナ 未来の医  
薬者へ」（読売新聞社主催）が、9月下旬から10月上旬に  
行われた。国内外から延べ1000人超の生徒が参加し、  
「コロナウイルスの影響を受けて今夏、大病院の現場に密着  
して医療体験プログラムを見送った代わりに行われた。コロ  
ナから再生医療、AI（人工知能）まで様々なテーマについ  
て講義が行われた。

高校生向け医療体験プ  
ログラムは2020年、三菱  
みらい育成財団の助成事  
業に選ばれました。セミ  
ナーもその一環として、  
5大学医学部などと連携  
して実施しました。

エクモ 呼吸不全や心不全の重症  
患者に使う生命維持装置で、「体外  
式膜型人工肺」と呼ばれる。英語の略  
称はECMO (Extracorporeal mem  
brane oxygenation)。自力で呼吸で  
きない患者の血液を体外に取り出し、  
人工肺で酸素を入れ、二酸化炭素を除  
去して体内に戻す。空気や酸素を肺に  
送る人工呼吸器とは異なる。

## 国内外から1000人

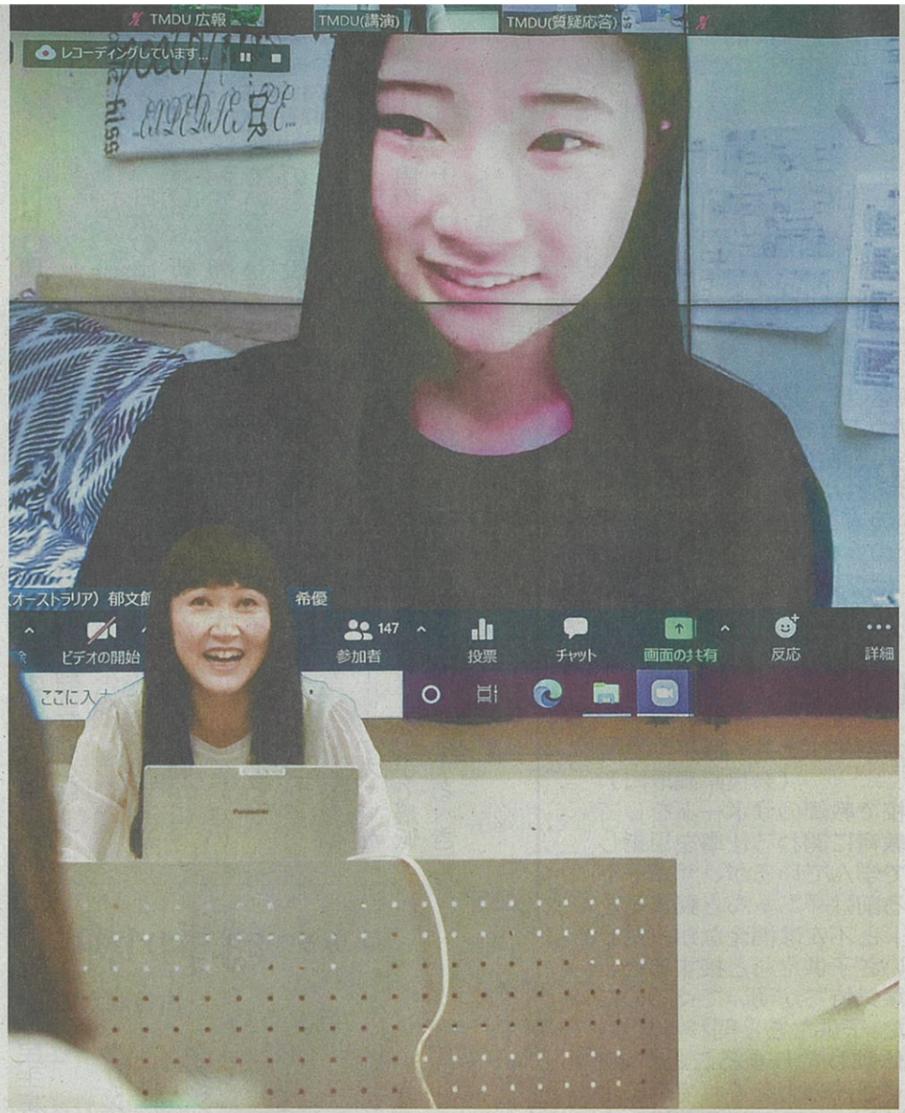
沖縄県立読谷高校3年 當山新千華さん「携帯端末を使った東京医科歯科大の  
新型コロナウイルス患者のリハビリは、現代にぴ  
ったり。看護師志望で、多職種連携の話  
は参考になった。様々な分野の医師と関  
わり、患者をサポートしたい」  
宮崎県立宮崎西高校2年 兒玉瑠乃さん「AIと人間が協力して医療を担う時  
代が、想像していたよりもずっと早く来  
ていると実感した。東北大学の講義を聴き  
ながら、自分が地域医療を担う医師にな  
って、AIを使いこなす姿を想像した」  
東京学芸大学付属国際中等教育学校5  
年 関智輝さん「長崎大の国際的な医療  
問題の話で『貧しいからといって医療で  
妥協してはいけない。貧しい人にこそ最  
高の医療を』という言葉が心に響いた。  
将来は、災害地や貧困地域などで、最も  
医療を必要としているところで働きたい」  
2020.11.17読売新聞

への感染の恐れも 歯科大学では、4人の医師  
のウイルスに、ど が初公開という病棟の動画  
全身の力が抜けて歩行は  
たのか。東京医科 を使い、医療者しか知らな  
困難、頭を自分で支えられ  
る。重症患者の回復期

の動画を見せた酒井朋子リ  
ハビリテーション部長は  
「人工呼吸器やエクモ」を  
装着した患者は、退院して  
すぐには普段の生活に戻れ  
ません」と説明した。  
リハビリで患者と医療者  
の距離が「密」になると、  
感染リスクは高まる。病院  
側は「密」の機会を減らそ  
うと、タブレット型端末「i  
Pad（アイパッド）」を  
導入し、リモートでの会話  
などを図った。酒井部長は  
「家族と面会できず寂しい  
思いをしている患者は、話

をしながら体を動かすと元  
気に明るくなる」とリハビ  
リにおける心理的な効果も  
強調した。  
病院長補佐の若林健二医  
師は、2月中旬頃から院内  
感染という「最悪のシナリ  
オ」を想定し、患者受け入  
れ体制を強化した舞台裏を  
話した。「多職種の連携」  
を呼びかけ、看護師不足が  
懸念された際は、集中治療  
室の掃除を手の空いた医師  
が行ったといい、「物事に  
は限界があるが、あきらめ  
ずに工夫と協力をすること  
でセカンドベストを目指せ  
る」と語った。

# 東京医科歯科大 感染防止リモート駆使

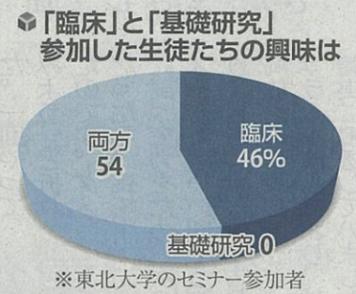


今回のオンラインセミナーは  
ウェブ会議システムで、講義や  
医療現場の動画を大学などから  
参加者限定で配信した。生徒た  
ちは自宅や教室などからパソコ  
ンなどを使って、医師らに質問  
を送った。  
文章を打ち込むチャット機能  
で受け付けた東京医科歯科大学  
には、約40件の質問が寄せられ  
た。  
オーストラリアに留学中の郁  
文館グローバル高校2年の佐藤  
希優さんが、「コロナに感染し

## 画面越し熱心に質問

た患者やその家族へのメンタル  
ケアはどうされていますか」  
と尋ねると、救命救急センタ  
ーの落合香苗医師は「重症病  
棟では毎日家族に電話して、そ  
の日の状況や今後の予定などを  
逐一知らせていました」と答え  
た。  
また、司会の宇山恵子特任講  
師が、学校の教室に集まった仙  
台市の仙台第二高校の生徒に  
「講義が楽しかった人は手を挙  
げて」と呼びかけると、一斉に  
手が挙がった。

# AI診断 予防に活用



学部に入り直し、産婦人科  
医となった木村芳孝名誉教  
授は「命とは何かと考えな  
がら数学を続けてきた」と、  
医療AI研究に進んだ経緯  
を話した。  
コンピュータが自ら学  
ぶ「ディープ・ラーニング  
(深層学習)」の仕組みを  
解説し、さらに進歩させた  
AIを工学部と共同で開発  
中だと話した。この研究は  
認知症や胎児診断などの

## 東北大セミナー

- ◆第1部 13:00~15:30  
＜講義＞ 中澤教授ら3人  
＜コロナ関連ビデオセミナー＞  
約10分  
押谷仁教授  
政府の感染症対策分科会構成員  
賀来満夫名誉教授  
日本野球機構とJリーグが設置  
した対策会議の専門家チーム座長
- ◆第2部 15:35~16:30  
＜3組に分かれ懇談会（質疑応  
答）＞  
【A】 木村名誉教授らが、将来  
の医療を展望  
【B】 若手医師が、研修医時代  
のやりがいや苦勞を本音トーク  
【C】 医学部生6人が、受験勉  
強から大学生活まで先輩として  
アドバイス

活用が可能とし、「医学部  
の学生らとベンチャー企業  
を作り、第二のグループを  
目指している」と述べ、医  
学や大学の枠をも超えた挑  
戦も紹介した。  
医師ではなく統計学を専  
門とする田宮元教授は、ゲ  
ノムを使った未来型医療に  
ついて講義した。15万人の  
遺伝子データを分析する東

# 健康格差ない世界を

エイズ、エボラ出血熱と  
いった感染症研究を進める  
長崎大学は、国内外で活躍  
してきた6人が講義した。  
熱帯医学研究所の有吉紅  
也教授は、英国やシン  
ガポール、タイやベトナ  
ムなど海外で14年間、  
エイズや肺炎の治療・  
研究に取り組んできた  
経験を話した。  
シンガポールの病院で  
は、入院患者の3割以  
上がエイズ末期という厳し  
い状況の中、「聴診器1個  
では救えない」と痛感。こ  
の体験を基に、現場での治  
療だけでは救う患者数に限  
りがあるとして、ウイルス  
の本格的な研究を始めた。  
健康格差のない世界を目指  
すべきだとして、「（専門  
性）国境を超えてみよつ、  
自分の限界を超えてみ  
よつ」と呼びかけた。  
国内外の緊急支援活  
動に携わる山本太郎教  
授は、国際援助隊の一  
員として2010年に  
出向いたハイチでの活  
動を「貴重な体験だっ  
た」と振り返った。  
大地震とコレラ大流行に  
見舞われたハイチの被災現  
場では、広場に張ったテン  
トにベッドを並べるという  
劣悪な状  
況下で診  
療に当た  
り、大勢  
の重症患  
者をどの順序で診るのか、  
難しい判断を迫られた」と  
いう。生徒から「海外での医  
療活動で大切なことは何  
か」と聞かれると、「語学が  
最低限必要。自分たちと同  
じ仲間だと思ふことが大  
切にアドバイスを送った。

## \*長崎大

◆他の講義 柳原克紀教授  
「新型コロナウイルスの現状  
と今、求められているもの」、  
北潔教授「電子工学から生  
化学、そして寄生虫学から  
グローバルヘルス」、南保明日香  
教授「ウイルスの一生を視  
る」、安田二朗教授「新興ウ  
イルス感染症研究とBSL-4  
実験施設」